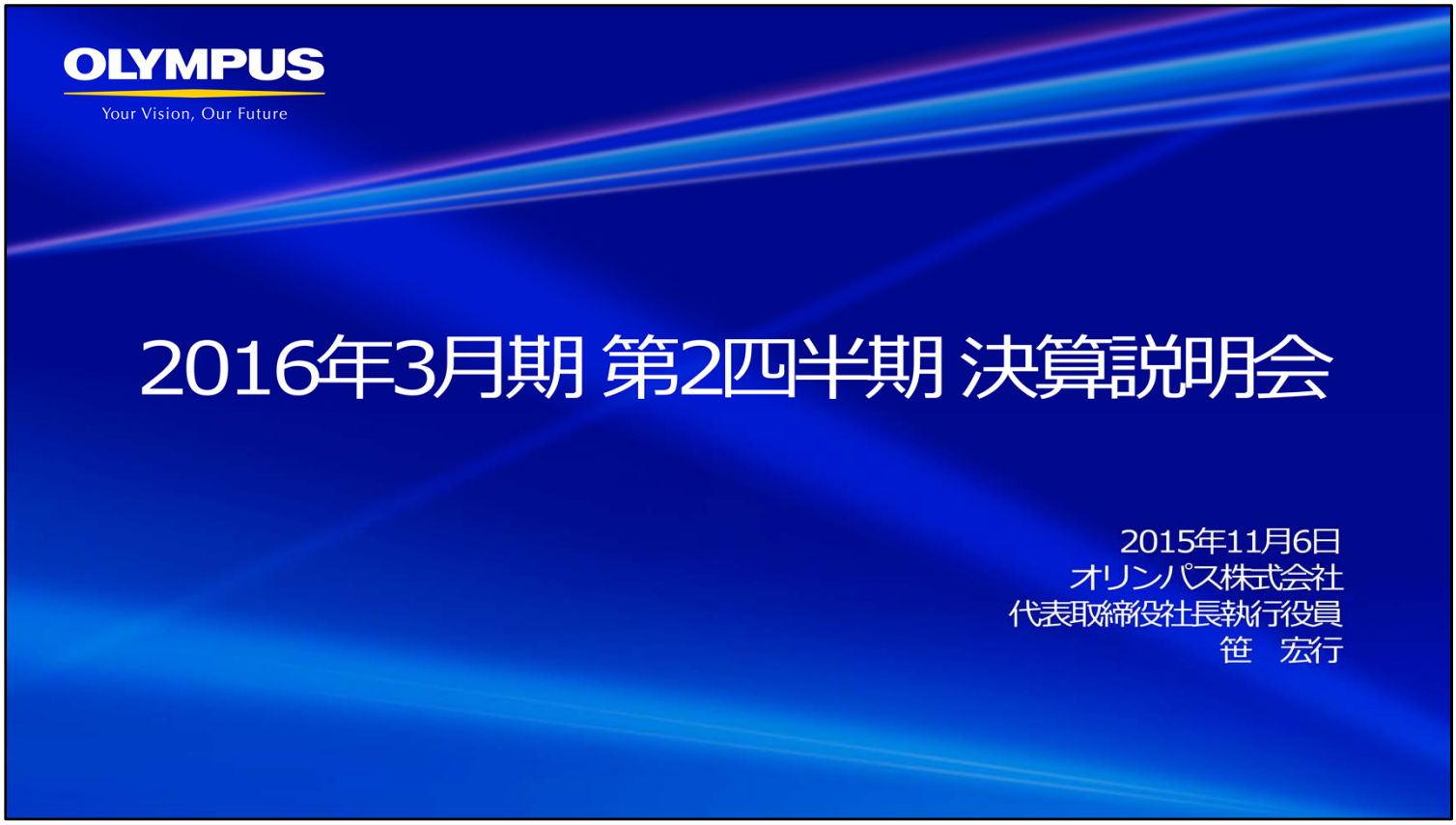


- （スライド１）

- オリンパスの笹です。

- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2016年3月期第2四半期決算（発表）説明会」にお集まりいただき誠にありがとうございます。

- 本日は、まず私からこの第2四半期決算の概要についてご説明します。その後、財務担当役員の竹内より、決算数値の詳細についてご説明申し上げます。

ハイライト

上期実績

前年同期比：２桁増収と収益力向上により、各利益項目で大幅増益
業績予想比：売上高・全利益項目において業績予想を上回り、大変好調に推移

医療事業

上期としては４期連続となる過去最高業績を更新し、連結業績を牽引

通期業績見通し

中国市場減速等の不確実要素を考慮し、各利益見通しを据え置き

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド2）
- スライドの2ページをご覧下さい。
- 今第2四半期決算の主なポイントはこちらの3点です。

- 1点目は連結の売上高が2桁増収となり、各利益項目において前年同期比で大幅な増益を達成したことです。また、計画に対しても全項目で上回る大変好調な決算となりました。

- 2点目ですが、主力の医療事業がこの好調な業績を牽引しました。上期としては、4期連続となる過去最高の売上高、営業利益となりました。

- 最後に、3点目は通期業績見通しです。上期の好調な業績はあるものの、中国市場の減速等、一部でマクロ環境が不透明となっていることから、営業利益以下の各利益見通しについては、慎重に据え置いております。

- それでは、これらのポイントについて具体的にご説明いたします。

2016年3月期第2四半期実績（連結）

❶ 医療事業が牽引し、リーマンショック以降、過去最高の501億円の営業利益を計上
❷ 経常利益・当期純利益においても、大幅な増益となり、計画を上回る実績

（単位：億円）	2015年3月期 2Q累計（4-9月）（実績）	2016年3月期 2Q累計（4-9月）（期初計画）	**2016年3月期 2Q累計（4-9月）（実績）**	前年同期比	計画比
売上高	3,550	3,900	**3,958**	+12%	+1%
営業利益（営業利益率）	384 (10.8%)	450 (11.5%)	❶ **501 (12.7%)**	+30%	+11%
経常利益（経常利益率）	297 (8.4%)	370 (9.5%)	**435 (11.0%)**	+47%	+18%
当期純利益（※）（当期純利益率）	223 (6.3%)	280 (7.2%)	**358 (9.0%)**	+60%	+28%

❷

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

- （スライド3）
- スライドの3ページをご覧下さい。

- こちらが、第2四半期、4月から9月までの累計実績です。

- 好調な医療事業が全社業績を大きく牽引し、営業利益は、リーマンショック以降の上期決算として過去最高となる前年同期比30%増の501億円となりました。

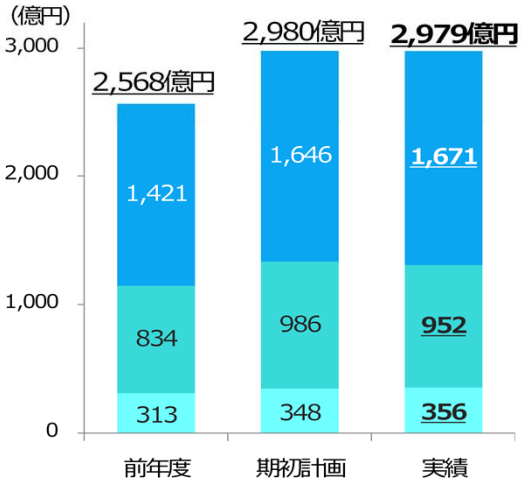
- 経常利益、当期純利益も、こうした好調な事業利益に加え、営業外費用を減少させたこと等により、さらに高い増益率、および計画を大幅に上回る結果となりました。

- 主力の医療事業が好調な背景と、収益改善に取り組んでいる映像事業に　ついて、少し補足させて頂きます

医療事業　：上期好調の要因

❶ 前年比：主力の内視鏡を中心に販売が好調に推移したことにより、全分野で2桁成長
❷ 計画比：高い目標を掲げる外科は計画に対して若干の未達であったが、内視鏡・処置具がカバーし、全体では計画を達成

【売上高 前年比・計画比】



	前年比 ❶	計画達成率 ❷	
内視鏡	+18%	102%	1Qで国内の予算執行停滞等による影響があったものの、2Q以降、全地域でスコープを中心に販売が好調に推移し、前年・計画を上回る実績
外科	+14%	97%	主力の外科内視鏡が好調に推移したことにより、前年比2桁成長。ほぼ計画通りの実績
処置具	+14%	102%	一昨年から販売体制強化に取り組み、好調な販売が継続する北米をはじめ、日欧亜においても堅調に推移し、前年・計画を上回る実績

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

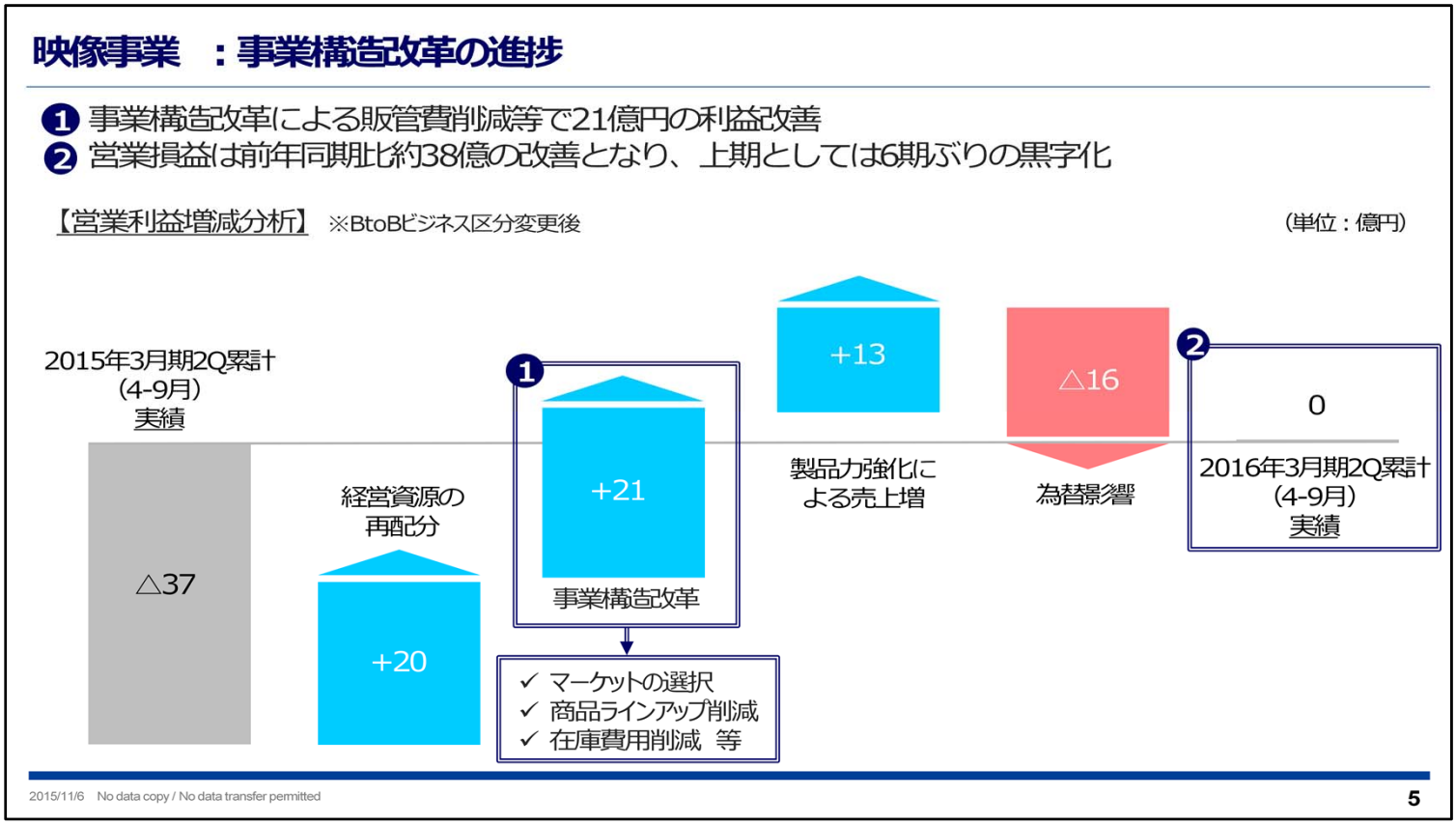
- （スライド4）
- スライドの4ページをご覧下さい。
- まず、医療事業です。

- 医療事業は、この上期で売上高2,979億円を計上し、前年比では3分野全てで2桁成長となりました。計画との比較では、高い成長を狙う外科分野の若干の計画未達はありましたが、内視鏡、処置具分野でカバーし、全体としては、今期の高い目標を達成することができました。

- ポイントは新製品投入から3年を経過した内視鏡が引き続き好調であることに加え、処置具の販売がグローバルに拡大している点です。

- 内視鏡は、販売施策の強化等により、全地域でスコープを中心に売上が拡大し、前年同期比プラス18%の成長、さらに計画に対しても2%上回る大変好調な実績となりました。

- 処置具も一昨年から販売体制強化に取り組んだ成果が出ており、北米に　加え、日本・欧州・アジアでも大きく売上が拡大しました。



- （スライド5）
- スライドの5ページをご覧下さい。
- 映像事業の構造改革の状況です。

- 円安による16億円のマイナス影響を吸収し、営業利益は前年同期比で約38億円の改善、上期で6期ぶりの黒字を確保することができました。

- 経営資源の再配分による損益改善効果もございましたが、マーケットの選択や商品ラインアップ削減、在庫費用の削減など、事業構造改革を進めたことで21億円の利益改善を図りました。

- 加えて、製品力強化によるミラーレスの増収効果も、約13億円利益改善に寄与しています。

- 下期以降も年間でのブレークイーブン達成に向け、販管費削減など今期の取組みを確実に進めて行きたいと思います。

2016年3月期 通期業績見通し

❶ 中国市場減速等の不確実要素を考慮し、営業利益以下の各利益見通しを据え置き
❷ 営業利益　　：8期ぶりに1,000億円を超える見通し
❸ 当期純利益　：過去最高となる560億円の見通し

（単位：億円）	2015年3月期 通期（実績）	2016年3月期 通期（最新見通し）	増減額	前期比
売上高	7,647	**8,160**	+513	+7%
営業利益（営業利益率）	910（11.9%）	❷ **1,000（12.3%）**	+90（+0.4pt）	+10%
経常利益（経常利益率）	728（9.5%）	❶ **860（10.5%）**	+132（+1.0pt）	+18%
当期純利益（当期純利益率）	△87（-）	❸ **560（6.9%）**	+647（-）	-

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド6）
- スライドの6ページをご覧下さい。

- 通期の連結業績見通しです。

- 冒頭申し上げましたとおり、中国市場の減速等、一部でマクロ環境が不透明な部分があり、営業利益以下の各利益見通しを保守的に据え置いています。

- 営業利益は8期ぶりに1,000億円を上回ります。当期純利益は前年の純損失から大幅に改善し、過去最高の560億円の見通しです。

医療事業　：下期の医療事業環境と取り組み

■ 中国など一時的な減速懸念は残るものの、販売強化等により安定成長を見込む

下期売上高計画（前年同期比）

国内	593億円（+9%）	・予算執行は停滞傾向だが、高齢化による検査・治療の増加傾向は継続 ・VPP*による更新加速や、戦略製品（4K／エネルギー新製品）投入により販売強化
海外	2,578億円（+4%）	・下期為替前提：ドル：115円、ユーロ：130円 ・為替影響を除いた実質ベースで+7%前後の成長見通し
北米		・内視鏡の安定的な更新需要に加え、手術室での内視鏡利用の需要増が上期から継続
欧州		・ドイツ、イギリス、イタリア等の主要国において、全分野で上期に続き堅調に推移する見込み
アジア		・中国の景気後退、反腐敗運動継続等による減速懸念 ・中国の中長期的な内視鏡需要拡大は不変、新製品販売により売上成長を継続

2015/11/6　No data copy / No data transfer permitted

*VPP（Value Per Procedure）：症例単価プログラム　7

- （スライド7）
- スライドの7ページをご覧下さい。
- この前提となる医療事業の下期の事業環境の見方です。
- 中国など一時的な減速懸念は残るものの、販売施策の強化等により、安定した成長を見込みます。

- 国内は、国公立病院を中心に予算執行が鈍くなっているものの、大規模な初期投資を必要としない「症例単価プログラム」による消化器内視鏡の更新加速や、4K内視鏡およびサンダービートのシザースのラインアップ拡充など、戦略製品を外科分野に投入することで、第2四半期に続き、一桁後半の成長を確保する見込みです。

- 北米は、今後も内視鏡の更新需要が見込まれることに加え、手術室等でも内視鏡利用の需要が継続し、安定成長を見込みます。

- 欧州は、ロシア等で一部需要の停滞は見られるものの、上期に引き続き　主要国を中心に堅調に推移する見通しです。

- 中国では、景気の後退と反腐敗運動継続等による減速が懸念されます。
- 但し、足元の引き合いは堅調であり、加えて、昨年市場投入した消化器内視鏡、外科内視鏡の新製品や、この下期から販売を開始したサンダービート等の拡販によって、上期に続き、着実な成長を確保する予定です。

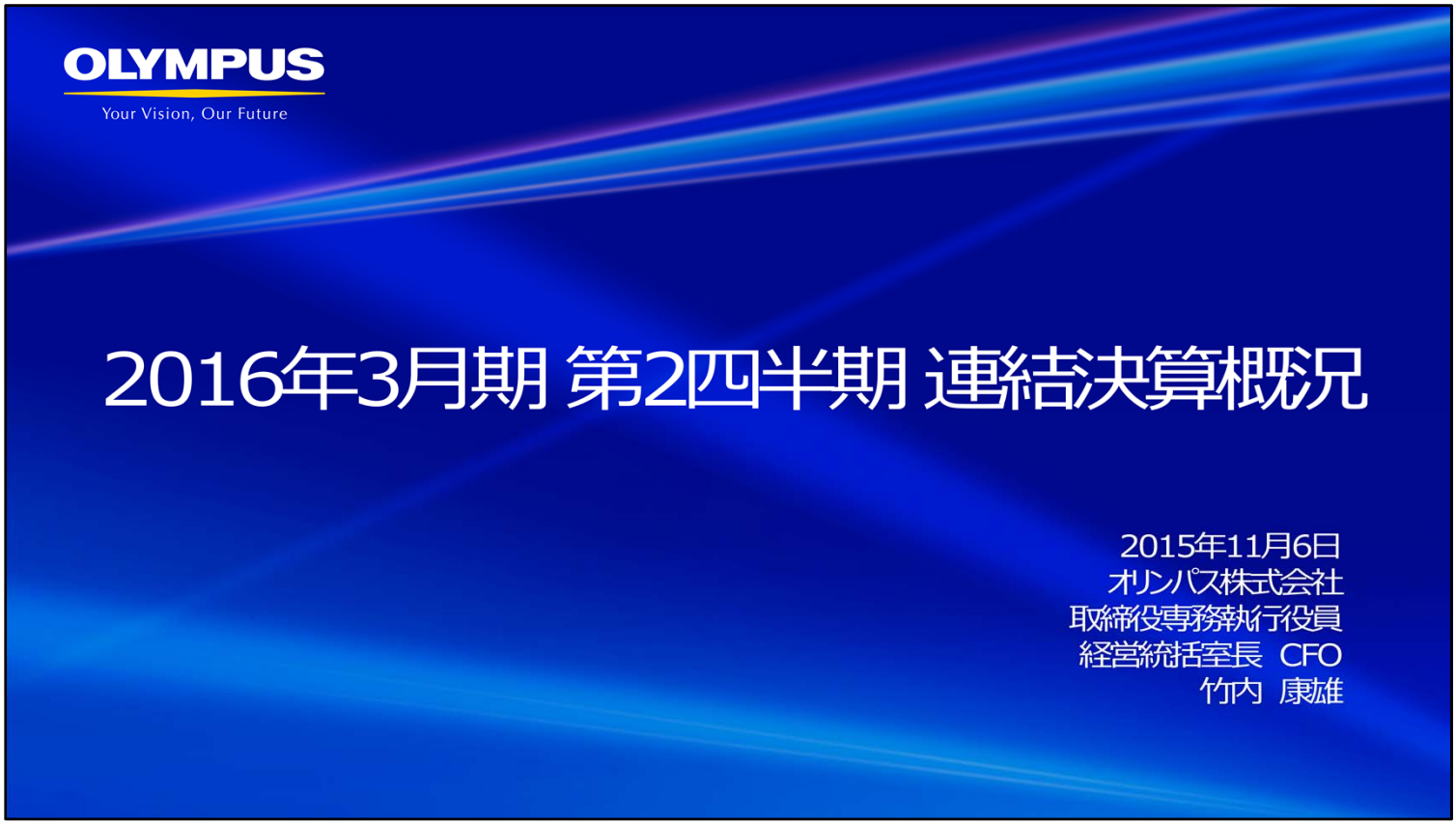
次期中期経営計画

■2016年4月スタートの5ヵ年計画

■医療領域へ経営資源を重点投入し、持続的な成長を実現

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド8）
- 最後になりました。
- 当社は現在、2016年4月をスタートとする5ヵ年の新中期経営計画を策定中です。
- 新体制となった、2012年4月からの現中期経営計画では「信頼の回復」と「事業ポートフォリオの見直し」に主眼を置き、業績、財務、企業体質面、それぞれにおいて確実な成果が上がっていると認識しています。
- 新しい中期経営計画では将来に向けた持続的な成長を最優先に、医療領域への経営資源投入をより明確にしていく方針です。
- 私からの説明は以上です。ご清聴有難うございました。



- （スライド9）
- 竹内です。
- それでは、私からは数値面を中心にご説明申し上げます。

2016年3月期 第2四半期
連結業績および事業概況

- （スライド10）

- まず、第2四半期の連結業績と事業ごとの概況についてご説明申し上げます。

2016年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

収益性の大幅な向上
- ❶ 第2四半期･上期として過去最高となる営業利益率
- ❷ 粗利率は大幅に改善（+2.9pt）、戦略投資による販管費率の上昇を吸収

	2Q累計（4-9月）				2Q実績（7-9月）		
（単位：億円）	2015年3月期	2016年3月期	増減額	前年同期比	2015年3月期	2016年3月期	前年同期比
売上高	3,550	**3,958**	+408	+12%	1,880	**2,082**	+11%
売上総利益	2,254	**2,628** ❷	+374	+17%	1,190	**1,410**	+19%
（売上総利益率）	(63.5%)	**(66.4%)**	(+2.9pt)		(63.3%)	**(67.7%)**	
販管費	1,870	**2,127**	+257	+14%	956	**1,081**	+13%
（販管費率）	(52.7%)	**(53.7%)**	(+1.0pt)		(50.9%)	**(51.9%)**	
営業利益 ❶	384	**501**	+117	+30%	234 ❶	**329**	+41%
（営業利益率）	(10.8%)	**(12.7%)**	(+1.9pt)		(12.4%)	**(15.8%)**	
経常利益	297	**435**	+138	+47%	185	**268**	+45%
（経常利益率）	(8.4%)	**(11.0%)**	(+2.6pt)		(9.8%)	**(12.9%)**	
当期純利益(※)	223	**358**	+135	+60%	142	**191**	+34%
（当期純利益率）	(6.3%)	**(9.0%)**	(+2.7pt)		(7.5%)	**(9.2%)**	

円／USドル	103円	**122円**	19円（円安）
円／Euro	139円	**135円**	△4円（円高）
影響額：売上高	-	**+263億円**	
影響額：営業利益	-	**+93億円**	

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

（※）親会社株主に帰属する当期純利益 11

- （スライド11）
- スライドの11ページをご覧下さい。

- 上期の連結売上高は前年同期比12%増の3,958億円、営業利益は30%増の501億円となりました。引き続き医療事業が好調に推移したことに加え、円安による効果もあり、連結営業利益を押し上げました。

- 営業利益率は12.7%と上期決算としては過去最高の営業利益率となりました。医療事業への戦略投資により販管費率が約1ポイント上昇したものの、粗利率が前年同期から約3ポイント改善したことが、収益性の大幅向上に寄与しています。

- 経常利益につきましては、有利子負債の圧縮を進め、営業外収支が改善したことにより、47%増益の435億円、また、当期純利益は、好調な事業利益に加えて、繰延税金資産の加算などにより、60%増益の358億円となりました。

2016年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

❶ 医療事業は、2013年3月期以降、過去最高の業績（売上高:2,979億円･営業利益:679億円）
❷ 医療･科学･映像の3事業で増収･増益（映像事業は前年同期比+38億円の大幅改善）

（単位：億円）		2Q累計（4-9月） 2015/3	2016/3	増減額	前年同期比	2Q実績（7-9月） 2015/3	2016/3	増減額	前年同期比
医療	売上高	2,568	**2,979**	+412	+16%	1,359	**1,585**	+226	+17%
	営業利益	546	**679**	+133	+24%	304	**428**	+124	+41%
科学	売上高	467	**485**	+18	+4%	256	**257**	+1	+1%
	営業利益	13	**33**	+21	+165%	15	**26**	+10	+68%
映像(※)	売上高	377	**415**	+38	+10%	191	**200**	+9	+5%
	営業利益	△37	**0**	+38	-	△18	**△11**	+7	-
その他(※)	売上高	139	**79**	△60	△43%	74	**40**	△34	△47%
	営業利益	△1	**△33**	△31	-	△2	**△19**	△17	-
全社･消去	売上高	-	**-**	-	-	-	**-**	-	-
	営業利益	△136	**△179**	△43	-	△66	**△95**	△30	-
連結合計	売上高	3,550	**3,958**	+408	+12%	1,880	**2,082**	+202	+11%
	営業利益	384	**501**	+117	+30%	234	**329**	+95	+41%

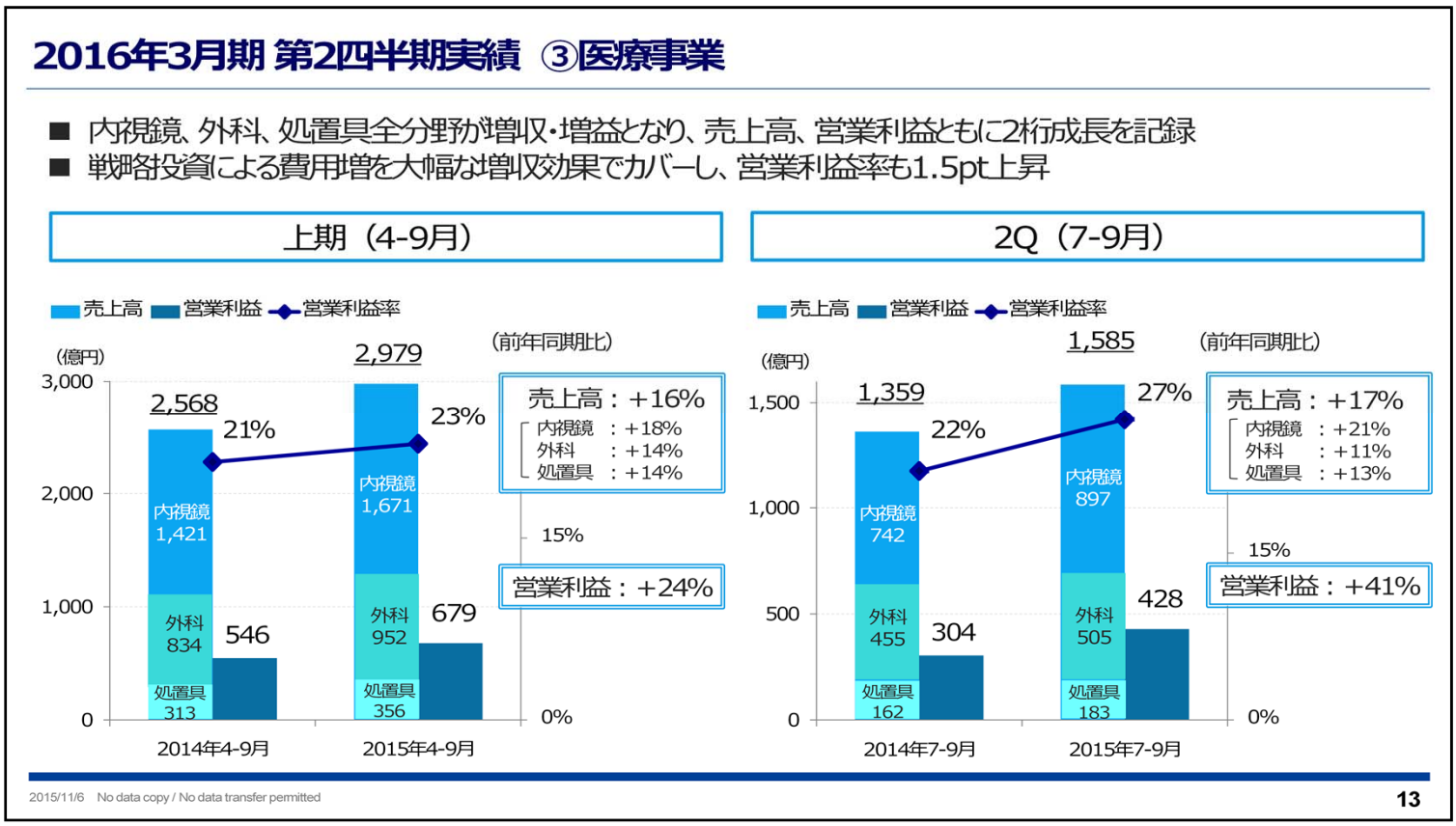
2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

- （スライド12）
- スライドの12ページをご覧下さい。
- セグメント別の状況についてご説明申し上げます。

- 医療事業は、上期として過去最高の売上高 、営業利益を計上し、引き続き全社業績を大きく牽引しています。

- また、科学・映像事業においても増収・増益となりました。
- 特に映像事業は、製品力強化によるミラーレスの増収効果に加え、事業構造改革によるコスト削減効果等が寄与し、前年同期 37億円の営業赤字から大きく改善し、上期業績としては6期ぶりの黒字確保となりました。



- （スライド13）
- スライドの13ページをご覧下さい。
- こちらは、医療事業です。

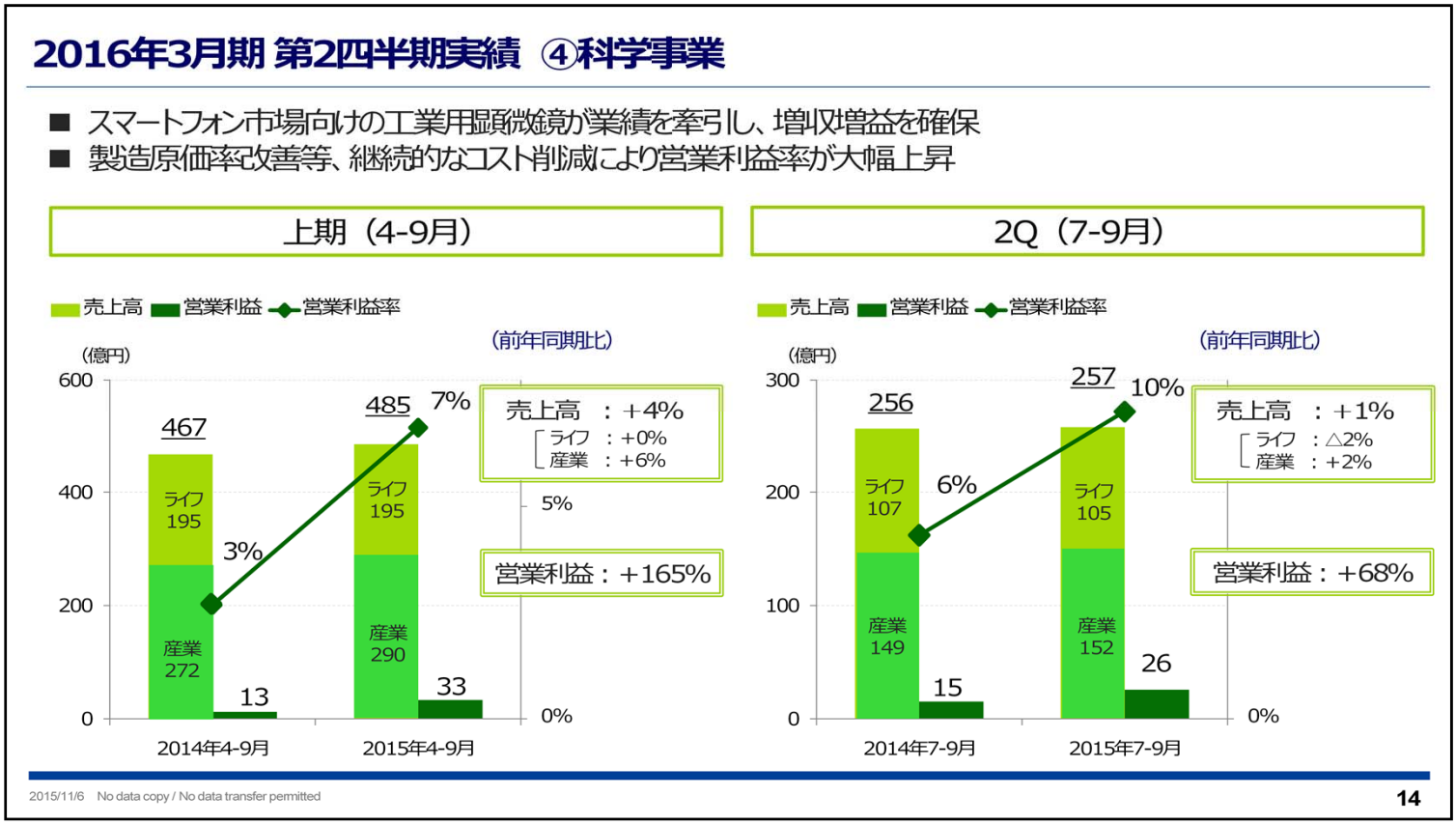
- 主力の消化器内視鏡を始め、戦略分野である外科、および処置具の全セグメントにおいて増収となり、売上高は、前年同期比16%増の2,979億円、営業利益は24%増の679億円と、いずれも2桁成長を記録しました。

- 主力の消化器内視鏡ですが、国内は第1四半期に国公立病院を中心に各病院の予算執行に停滞傾向が見られたものの、第2四半期以降大幅に回復し、5%の増収を確保しました。加えて、北米、欧州など海外でエクセラスリー等の販売が好調に推移したことにより、消化器内視鏡分野全体で18%の大幅な増収となりました。

- 外科分野は、前期に行った主に海外の販売体制強化の効果が出始めており、北米、欧州、中国でビセラエリート、さらに、サンダービートの販売も、北米、欧州で好調に推移し、14%の増収となりました。

- 処置具分野は、引き続き販売体制強化の成果が出ており、14%の増収となりました。

- なお、右側のグラフは、第2四半期（7-9月）の数値ですが、特に営業利益率は前年同期から約5ポイント改善となる27%と大幅に改善しております。

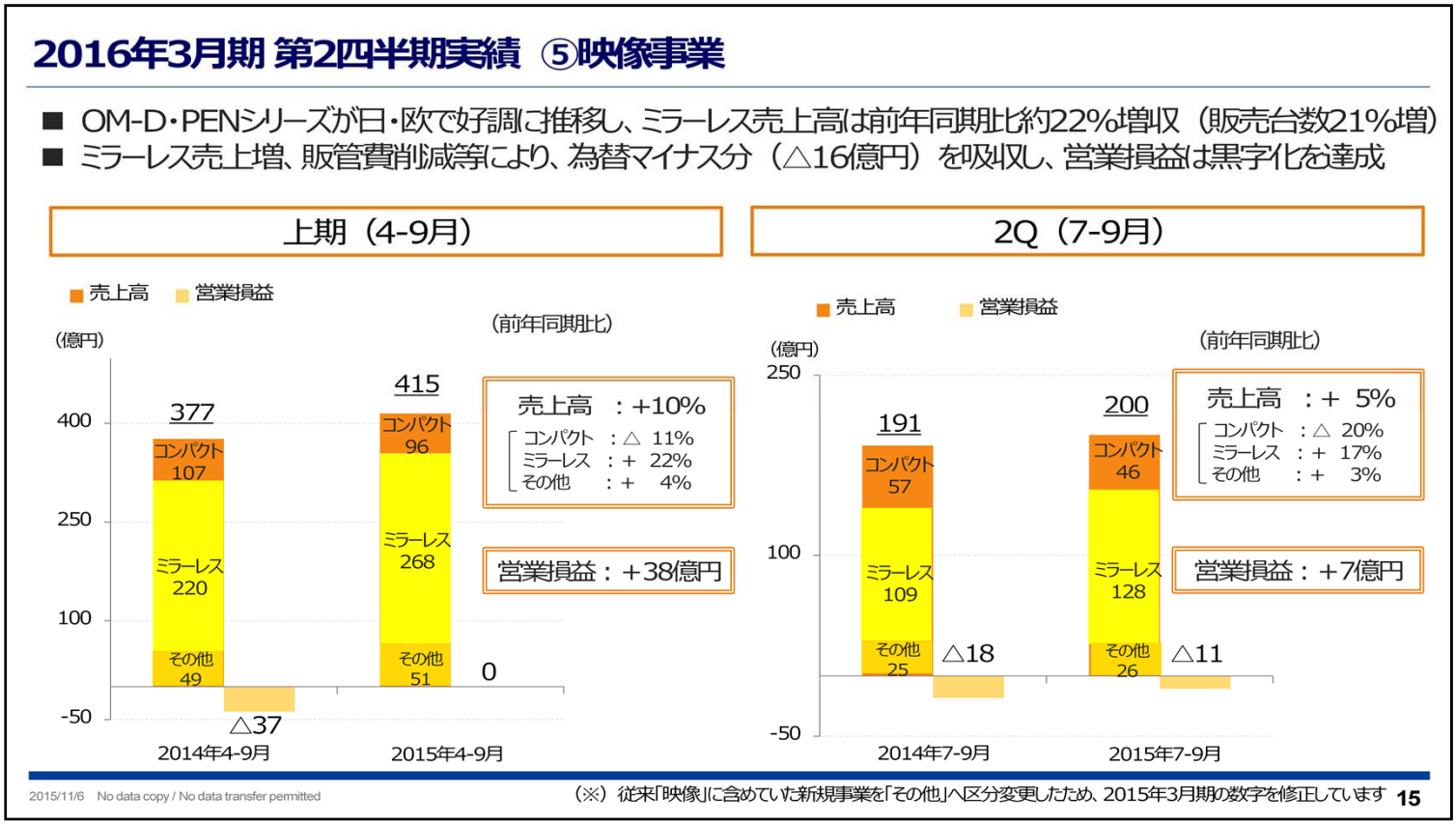


- （スライド14）
- スライドの14ページをご覧下さい。
- 科学事業です。

- 売上高は、前年同期比 4%増の485億円、営業利益は前年同期比約2.6倍の33億円となりました。

- ライフサイエンス分野では、国内で研究施設の予算執行が引き続き抑制されており、前年同期並みの売上に留まりましたが、産業分野で、国内を中心にスマートフォンをはじめとした電子部品市場向けの工業用顕微鏡が好調に推移したことに加え、自動車市場向けの工業用内視鏡が国内外で販売を伸ばしたことなどにより、増収となりました。

- 営業利益は、工業用顕微鏡および工業用内視鏡等、産業分野の増収効果に加え、生産販売計画の適正化による原価改善等により、大幅な増益となりました。



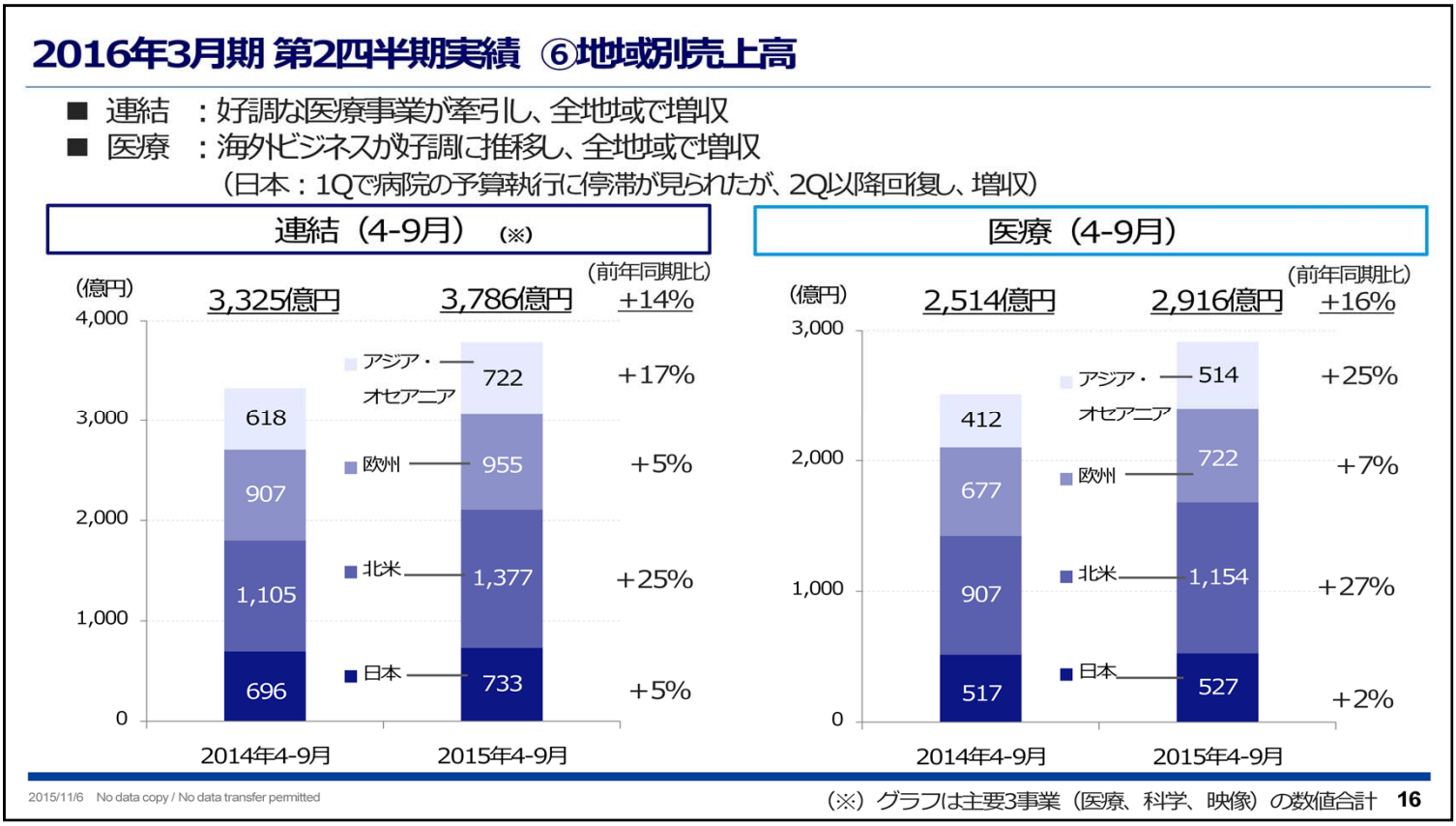
- （スライド15）
- スライドの15ページをご覧下さい。
- 続いて映像事業です。

- 売上高は、前年同期比約10%増の415億円、営業損益は黒字化することができました。

- ミラーレスについては、国内と欧州を中心に、OM-Dシリーズ、PENシリーズともに販売が好調に推移し、ミラーレスの売上高は22%増の268億円、販売台数も21%増の約28万台となりました。

- 営業損益は、円安による為替のマイナス影響がありましたが、ミラーレスの増収効果や、広告宣伝費、販売促進費、研究開発費等の販管費削減を進めたことで、前年同期比で約38億円改善し黒字となりました。

- 尚、この上期は映像事業に関する事業構造改革による損失を、約8億円特別損失として計上しております。



- （スライド16）
- スライドの16ページをご覧下さい。
- 地域別の状況です。

- 連結ベースでは、医療事業が牽引し、全地域で増収となっています。

- 右側のグラフは医療事業ですが、全地域で増収です。

- 特に、北米は、主力の消化器内視鏡の「エクセラスリー」や、販売体制強化の効果が現れ始めた外科内視鏡の「ビセラエリート」、エネルギーデバイスの「サンダービート」の販売が好調に推移する等、27%増と大幅な増収となりました。

連結貸借対照表（2015年9月末）

❶ 自己資本比率は 36.9%、有利子負債は約380億円圧縮
❷ デジカメ在庫の削減は予定通りに進捗し、48億円減の189億円

（単位：億円）	2015年3月末	2015年9月末	増減額
流動資産（デジカメ在庫）	5,775（237）	❷ **5,485（189）**	△290（△48）
有形固定資産	1,501	**1,611**	+110
無形固定資産	1,806	**1,706**	△101
投資その他資産	1,732	**1,763**	+31
資産合計	10,816	**10,565**	△250

	2015年3月末	2015年9月末	増減額
流動負債	3,748	**3,445**	△303
固定負債（内：社債・長期借入金）	3,495（2,533）	**3,199（2,241）**	△296（△292）
純資産	3,573	**3,921**	+349
（自己資本比率）	（32.9%）	❶ **（36.9%）**	（4.0pt）
負債 純資産 合計	10,816	**10,565**	△250

❶ 有利子負債： 3,161億円（2015年3月末比 △ 383億円）
純有利子負債： 1,213億円（2015年3月末比 △ 233億円）

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド17）
- スライドの17ページをご覧下さい。

- バランスシートの状況です。
- 全体のバランスシートの構造に大きな変化はございません。

- まず、有利子負債は期日弁済等により、2015年3月末比で約380億円減の3,161億円となりました。加えて、当期純利益を積み上げたこと等により、自己資本比率は2015年3月末比で4ポイント改善し、36.9%となりました。

- 課題となっていたデジタルカメラの在庫ですが、生産面のコントロールや、ミラーレス販売が好調に推移したこと等から、2015年3月末から48億円減少し、189億円となりました。

- また、医療事業の主力製造拠点である東北地方の3工場の生産能力増強等により、有形固定資産が110億円増加しています。

連結キャッシュフロー計算書（2015年4月～2015年9月）

❶ FCF：好調な事業利益を主要因として、前年同期比1.8倍となる274億円を確保

（単位：億円）	2015年3月期2Q	2016年3月期2Q	増減
売上高	3,550	**3,958**	+408
営業利益	384	**501**	+117
（営業利益率：%）	10.8%	**12.7%**	+1.9pt
営業CF	296	**549**	+253
投資CF	△143	**△275**	△132
財務CF	△597	**△431**	+165
キャッシュフロー	△444	**△157**	+286
フリーキャッシュフロー	153	❶ **274**	+121
現金及び現金同等物期末残高	2,086	**1,949**	△138
減価償却費	174	**194**	+20
のれん償却額	45	**50**	+5
設備投資額	174	**318**	+144

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted 18

- （スライド18）
- スライドの18ページをご覧下さい。
- キャッシュフローの状況です。

- 営業キャッシュフローは、好調な医療事業を中心とした事業から創出するキャッシュフローと、デジタルカメラ在庫の削減に伴う棚卸資産の減少等により、前年同期の約2倍となる549億円のプラスとなりました。

- 投資キャッシュフローは、275億円のマイナスとなりました。
これは主に、医療事業のビジネス拡大による修理貸出品・デモ品の増加や、医療事業の主力製造拠点である東北地方の3工場などの生産能力増強に伴った設備投資関連支出によるものです。

- 以上により、フリーキャッシュフローは、前年同期比 1.8倍の274億円のプラスとなりました。

- なお、財務キャッシュフローですが、有利子負債を返済したことにより、431億円のマイナスとなりました。

2016年３月期 通期業績見通し

 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド19）
- それでは、2016年３月期通期の業績見通しについてご説明いたします。

2016年3月期 通期業績見通し

■ 営業利益以下の各利益項目は変更無し

（単位：億円）	2015年3月期（実績）	**2016年3月期（最新見通し）**	前期比増減額	前期比（%）	2016年3月期（期初見通し）
売上高	7,647	**8,160**	+513	+7%	8,100
営業利益（営業利益率）	910（11.9%）	**1,000（12.3%）**	+90（+0.4pt）	+10%	1,000（12.4%）
営業外収支	△182	**△140**	+42	－	△140
経常利益（経常利益率）	728（9.5%）	**860（10.5%）**	+132（+1.0pt）	+18%	860（10.6%）
当期純利益（当期純利益率）	△87（－）	**560（6.9%）**	+647（－）	－	560（6.9%）

円／USドル	110円	**118円**	8円（円安）
円／Euro	139円	**132円**	7円（円高）
影響額：売上高	-	**+161億円**	
影響額：営業利益	-	**+57億円**	

*下期為替前提
円／USドル ：115円
円／Euro ：130円

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

- （スライド20）
- スライドの20ページをご覧下さい。

- 先ほど笹が申し上げました通り、中国市場の減速等、下期以降の外部環境を慎重に見ており、営業利益以下の各利益見通しについては、期初の公表値から変更ございません。

- 売上高は前年同期比７％増の8,160億円、期初見通しとの比較では、上期の映像事業の売上増加を反映し60億円上方修正しています。
- 営業利益は10%増の1,000億円、経常利益は18%増の860億円、当期純利益は前年の純損失から改善し、 560億円となる見通しです。

2016年3月期 セグメント別業績見通し

■ 医療事業が全社業績を牽引
■ 映像事業は上期の売上増を反映、下期の見通しについては据え置き

	(単位：億円)	2015/3 (実績)	2016/3 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	2016年3月期 (期初見通し)
医療	売上高	5,583	**6,150**	+567	+10%	6,150
	営業利益	1,249	**1,370**	+121	+10%	1,370
科学	売上高	1,039	**1,100**	+61	+6%	1,100
	営業利益	68	**80**	+12	+17%	80
映像 (※)	売上高	794	**760**	△ 34	△ 4%	700
	営業利益	△ 117	**0**	+117	−%	0
その他 (※) (新事業)	売上高	230	**150**	△ 80	△ 35%	150
	営業利益	△ 10	**△ 120**	△ 110	−%	△ 120
全社・消去	売上高	−	**−**	−	−%	−
	営業利益	△ 281	**△ 330**	△ 49	−%	△ 330
合計	売上高	7,647	**8,160**	+513	+7%	8,100
	営業利益	910	**1,000**	+90	+10%	1,000

2015/11/6 No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

- （スライド21）
- スライドの21ページをご覧下さい。

- セグメント別の見通しです。

- 医療事業は、通期でも売上高、営業利益ともに大きく成長し、過去最高業績を更新、全社業績を牽引する見通しです。

- 映像事業については、ミラーレスによる、上期の売上増加を年間見通しに反映しています。しかし、引き続き今後の事業環境を慎重に見ており、下期の売上高、営業利益見通しについては期初の数値をほぼ据え置いています。下期も引き続き事業体質強化のための構造改革に取り組んで参りたいと思います。

OLYMPUS

- 最後に、今期の配当につきましては、ご案内の通り、当期の中間配当は実施せず、期末配当として1株17円を予定しております。

- 今後につきましては、医療事業の成長投資と株主還元のバランスを勘案しながら、徐々に皆様の期待に応えられる配当水準を現在策定中の新中期経営計画の中で検討していきます。

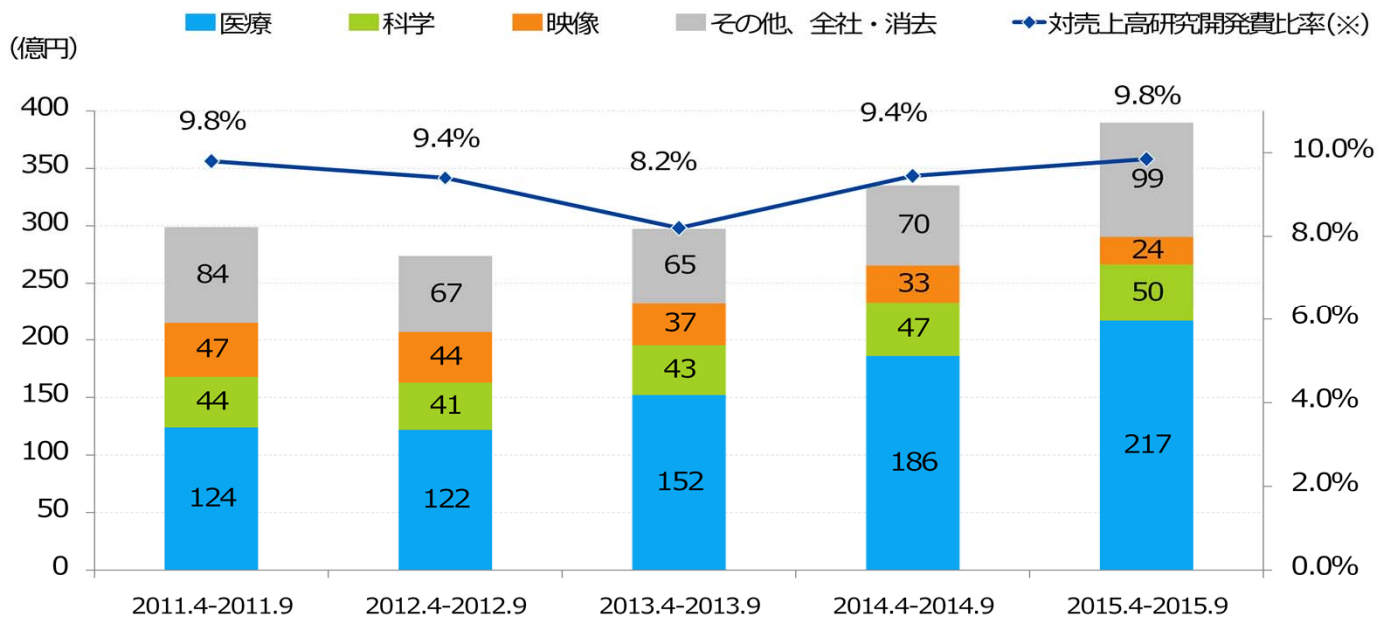
- 医療事業の成長を中心とした株主価値最大化の実現に向け、経営陣一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

- 私からは以上です。

- ご清聴有難うございました。

参考資料

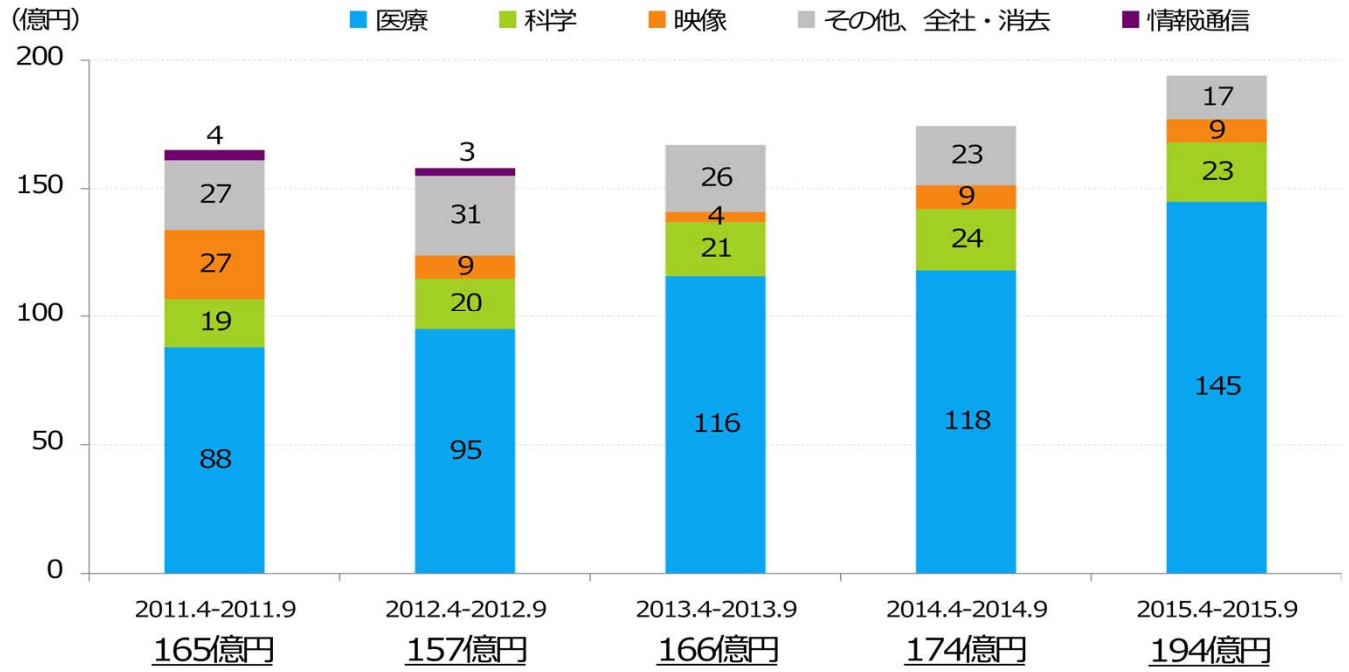
【参考資料】研究開発費



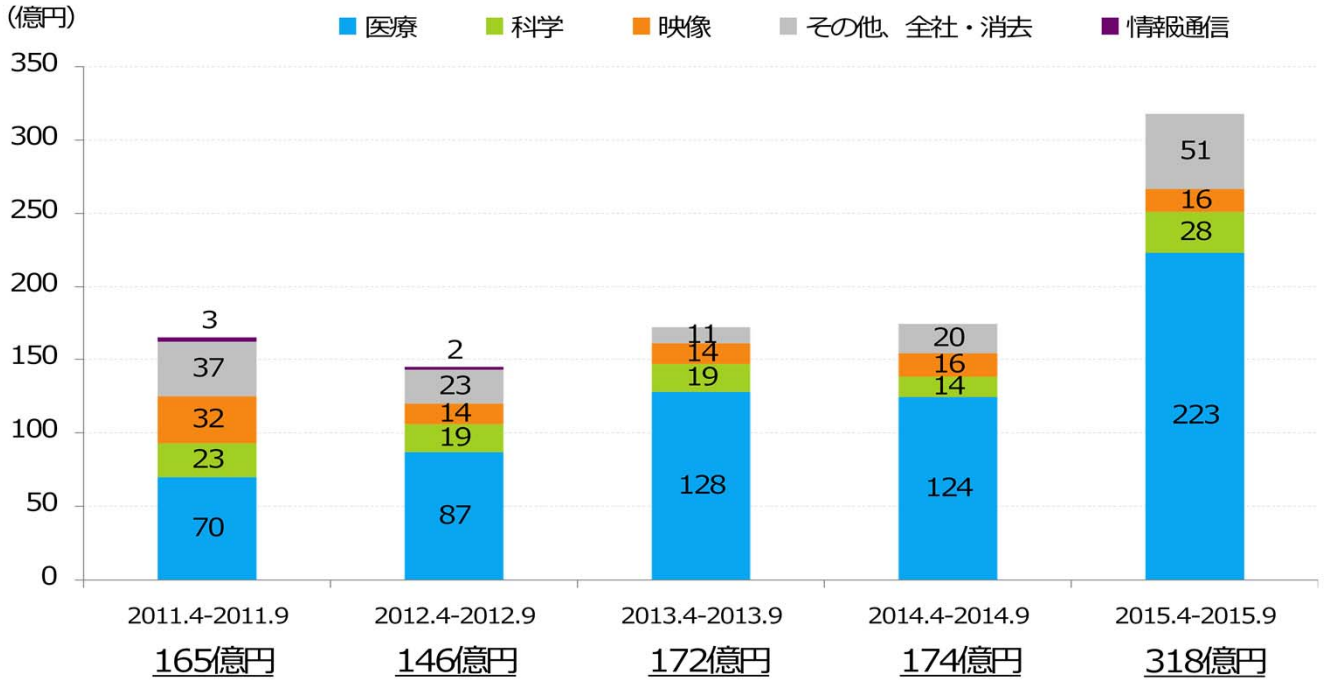
298億円　274億円　298億円　335億円　390億円

(※) 情報通信事業の売上高を除いた数値

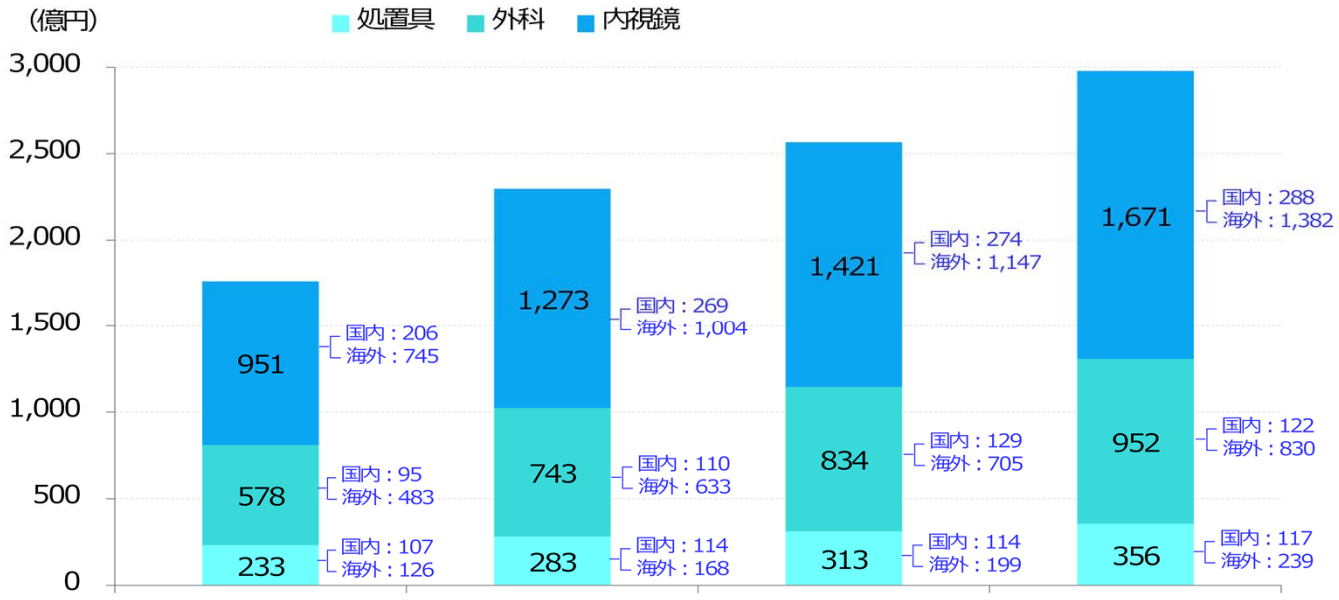
【参考資料】減価償却費


(億円)
医療
科学
映像
その他、全社・消去
情報通信
200
150
100
50
0
88
19
27
27
4
95
20
9
31
3
116
21
4
26
118
24
9
23
145
23
9
17
2011.4-2011.9
2012.4-2012.9
2013.4-2013.9
2014.4-2014.9
2015.4-2015.9
165億円
157億円
166億円
174億円
194億円

【参考資料】設備投資


(億円)
医療
科学
映像
その他、全社・消去
情報通信
350
300
250
200
150
100
50
0
3
37
32
23
70
2
23
14
19
87
11
14
19
128
20
16
14
124
51
16
28
223
2011.4-2011.9
2012.4-2012.9
2013.4-2013.9
2014.4-2014.9
2015.4-2015.9
165億円
146億円
172億円
174億円
318億円

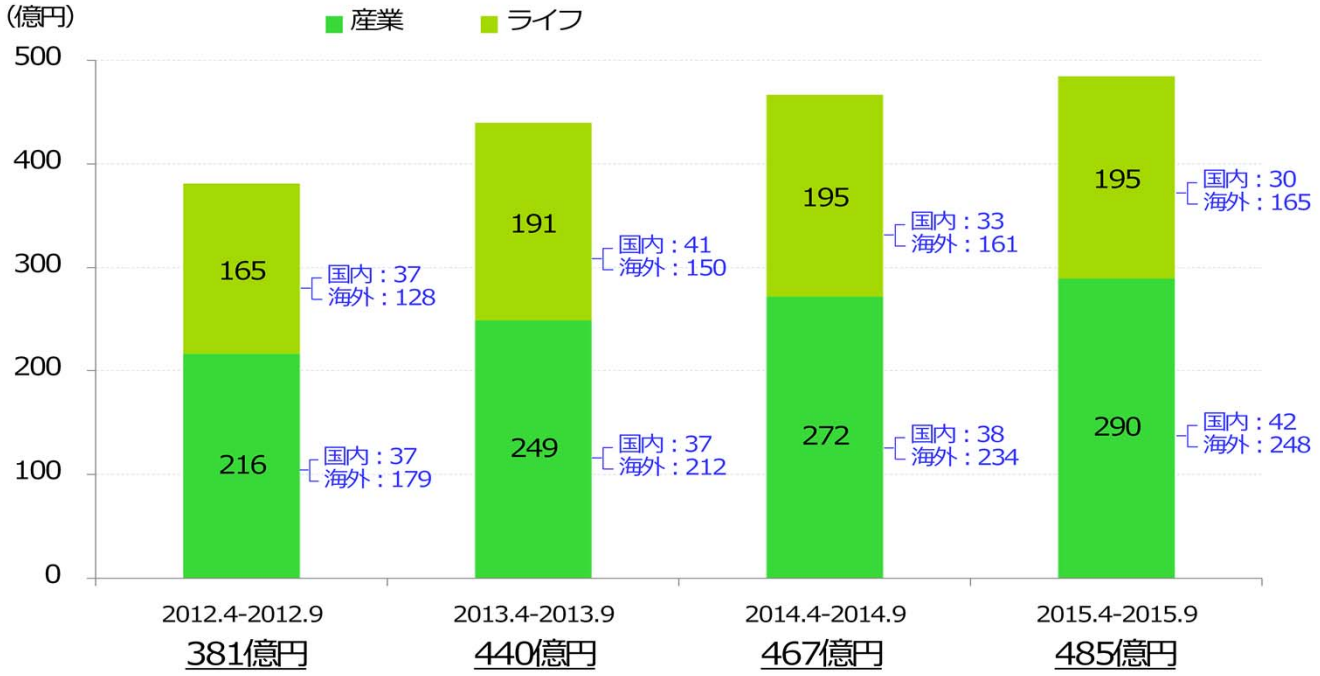
【参考資料】分野別売上高　（医療）



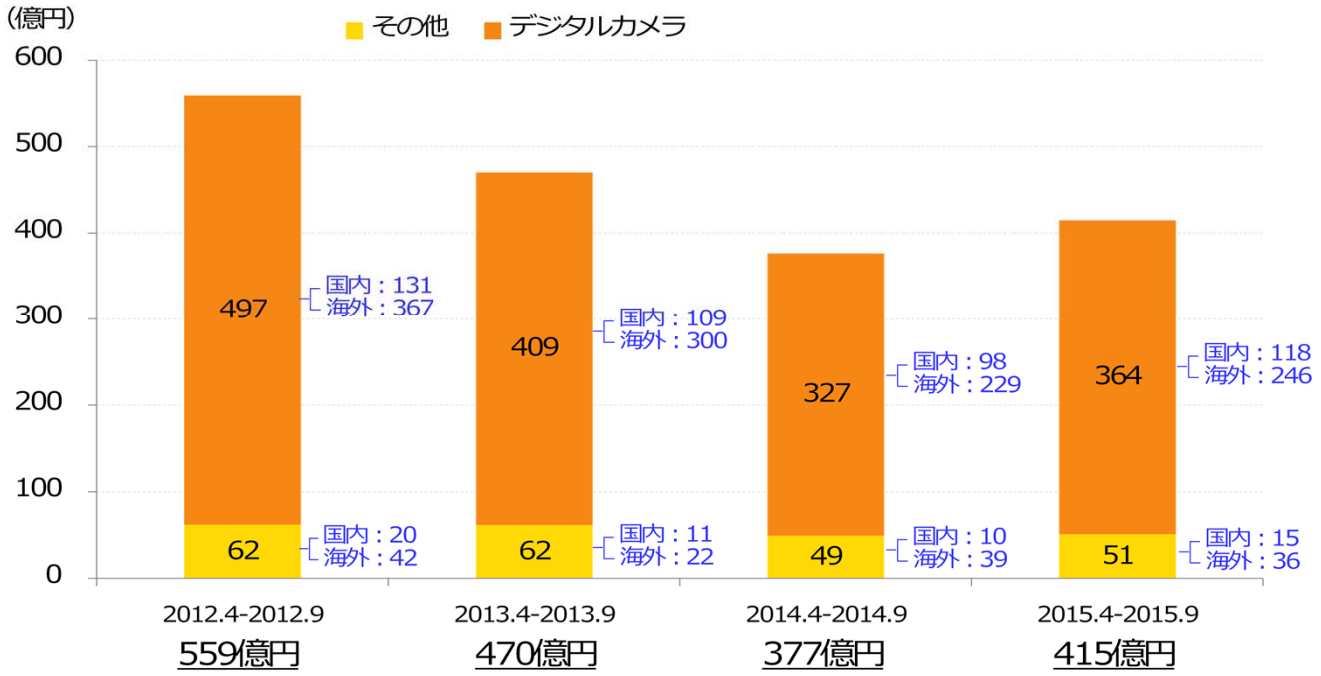
1,762億円　2,298億円　2,568億円　2,979億円

 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】分野別売上高　（科学）



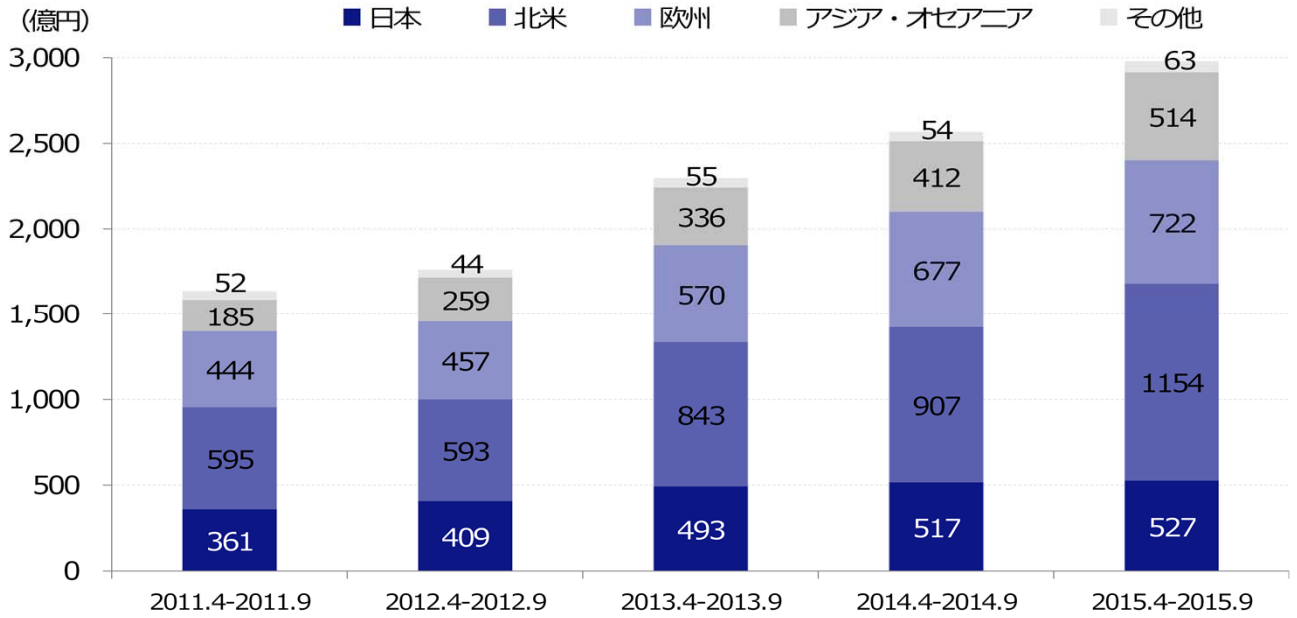
【参考資料】分野別売上高　（映像）



2015/11/6　No data copy / No data transfer permitted

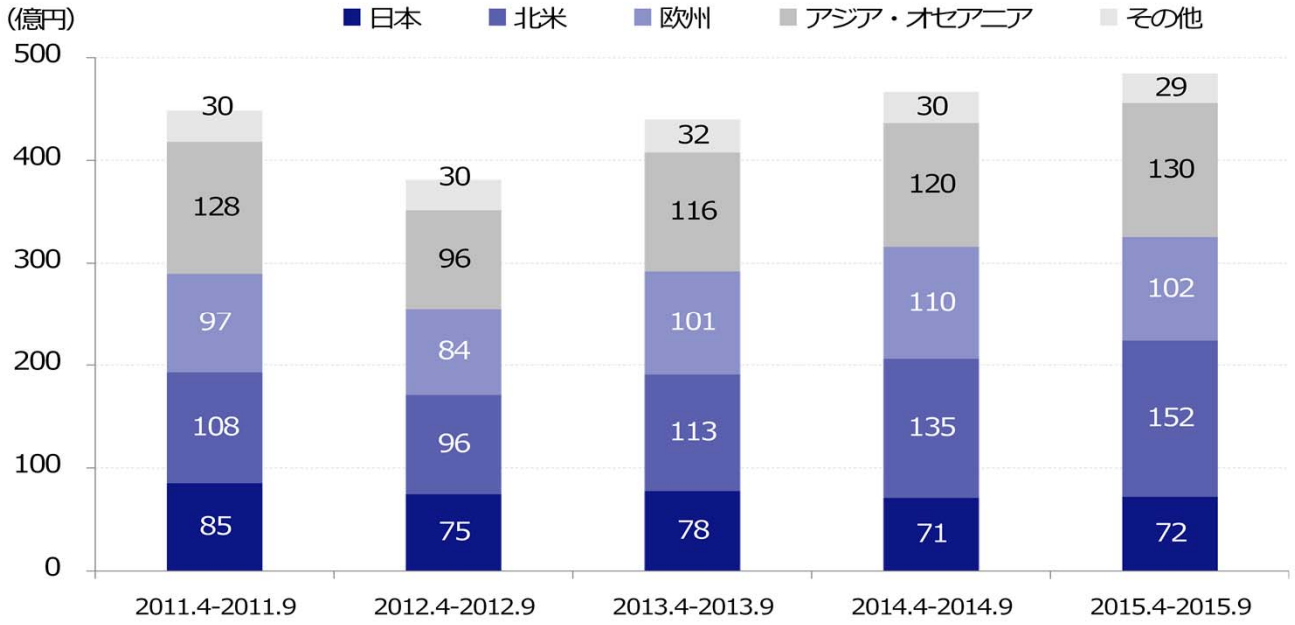
（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

【参考資料】地域別売上高　（医療）



 No data copy / No data transfer permitted

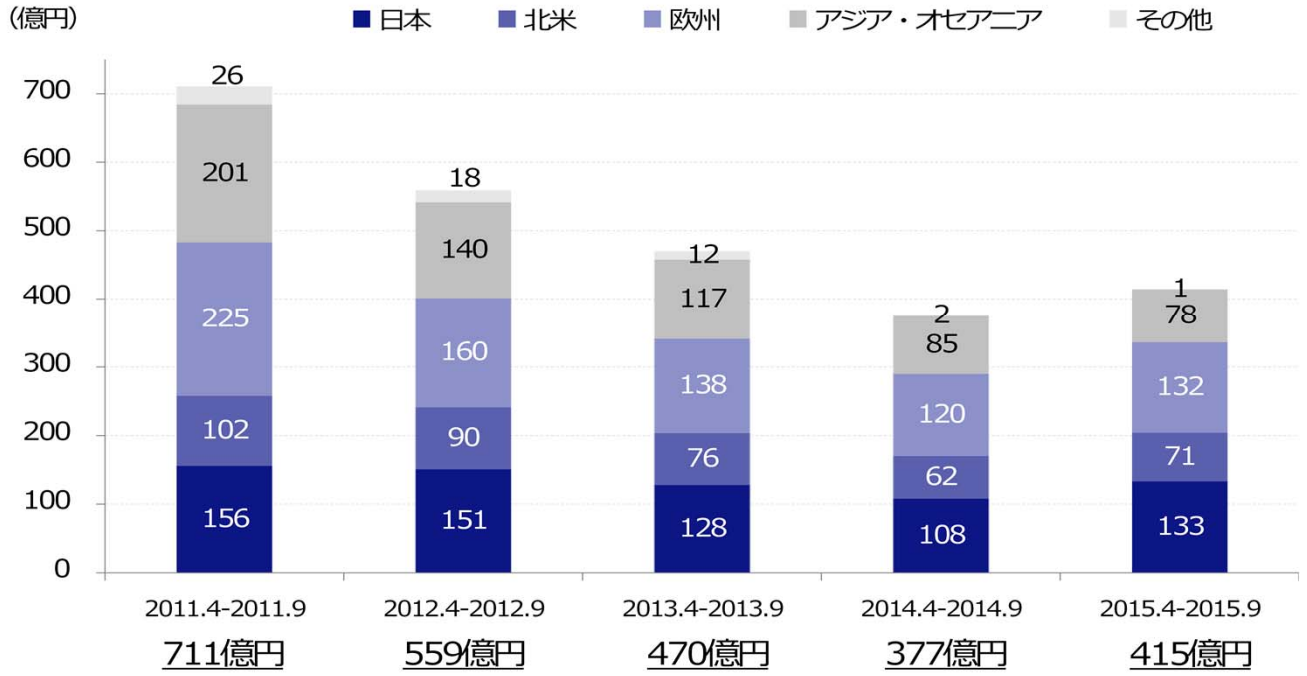
【参考資料】地域別売上高　（科学）



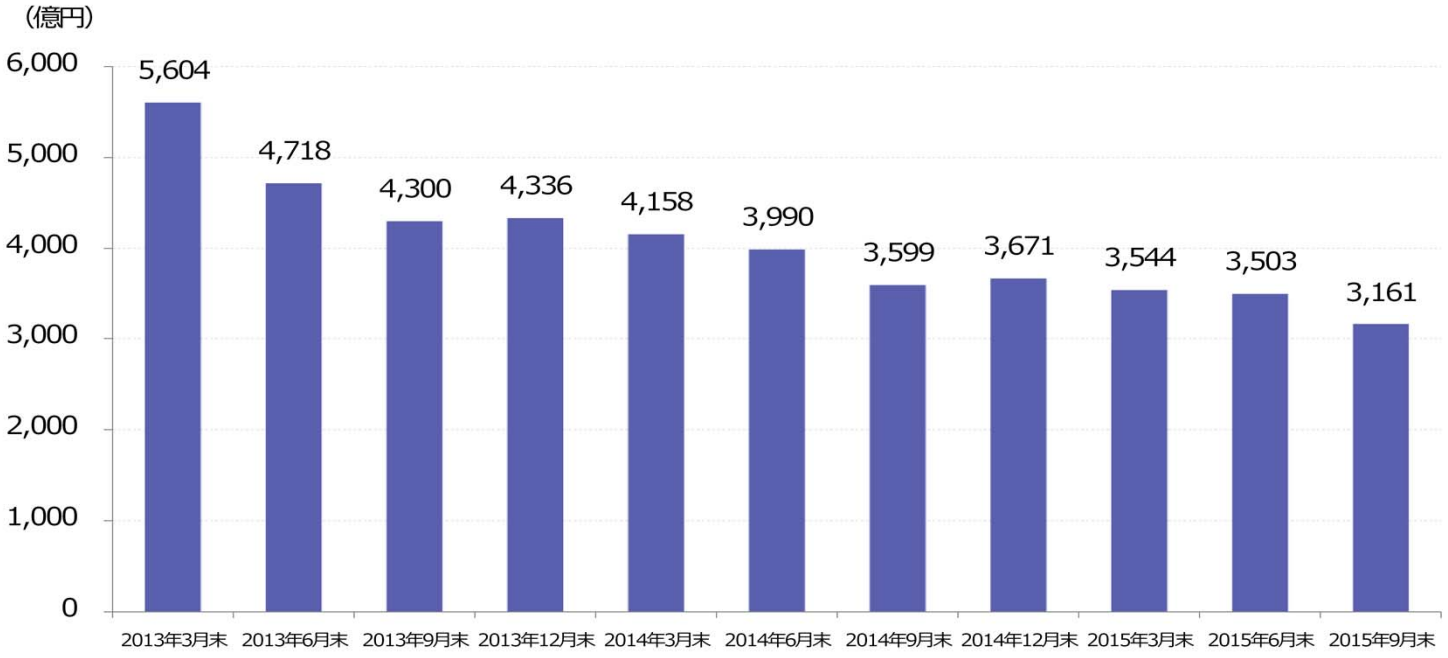
449億円　381億円　440億円　467億円　485億円

 No data copy / No data transfer permitted

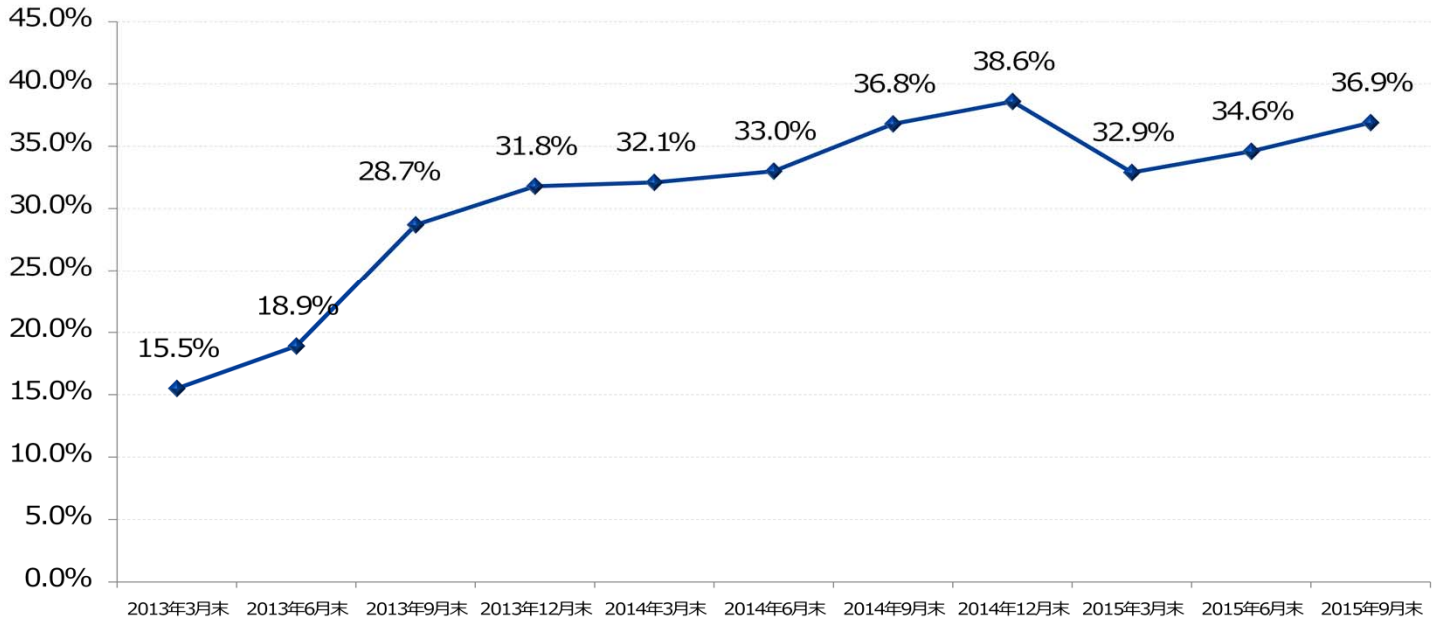
【参考資料】地域別売上高　（映像）



【参考資料】有利子負債


（億円）
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
5,604
4,718
4,300
4,336
4,158
3,990
3,599
3,671
3,544
3,503
3,161
2013年3月末
2013年6月末
2013年9月末
2013年12月末
2014年3月末
2014年6月末
2014年9月末
2014年12月末
2015年3月末
2015年6月末
2015年9月末

【参考資料】自己資本比率


45.0%
40.0%
35.0%
30.0%
25.0%
20.0%
15.0%
10.0%
5.0%
0.0%
15.5%
18.9%
28.7%
31.8%
32.1%
33.0%
36.8%
38.6%
32.9%
34.6%
36.9%
2013年3月末
2013年6月末
2013年9月末
2013年12月末
2014年3月末
2014年6月末
2014年9月末
2014年12月末
2015年3月末
2015年6月末
2015年9月末

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。